

2018-2019 ENDURANCE WORLD CHAMPIONSHIP R-5 (Final Round)

2018年-2019年 世界耐久選手権 第5戦(最終戦)

SUZUKA 8 Hours Endurance World Championship / 鈴鹿 8 時間耐久ロードレース

- ・開催日：2019年7月25~28日
- ・開催場所：鈴鹿サーキット(三重県) / 入場者数：109,000人

PIAA LED LAMP 装着の#10 Kawasaki Racing Team SUZUKA 8H が
8時間におよぶ熾烈なトップ争いの末、26年ぶりの劇的な優勝！！



ラスト2分で転倒するも勝利をつかんだカワサキチーム

#12 ヨシムラスズキ MOTUL レーシングは前半の1時間はトップを快走したが、徐々にファクトリーチームとの差を広げられ、5位フィニッシュした。



序盤トップを快走したがファクトリー勢に及ばず、来年の必勝を目指すヨシムラ

PIAA サポートチームの SERT (Suzuki Endurance Racing Team) は、ラスト 10 分でマシントラブルにより世界耐久選手権のシリーズチャンピオンを逸した！



惜しくもシリーズチャンピオンをラスト6分で逃した SERT (Suzuki Endurance Racing Team)

■Outline/概要

伝統の“鈴鹿8耐”は今年で42回目をむかえ、木曜のフリープラクティス、予選は好天に恵まれ各チームが素晴らしいパフォーマンスを発揮した。土曜日に開催される予選上位10チームによる“TOP 10 トライアル”は台風6号の接近に伴い見送られた。むかえた日曜の決勝は予定通り11:30にスタートし、19:30までの8時間耐久レースが行われた。2019年の鈴鹿8耐は近年まれに見るファクトリー3チーム(ヤマハ、ホンダ、カワサキ)の順位が目まぐるしく変わるデッドヒートを繰り広げ、決勝日に来場した6万5千人の大観衆が興奮した。

PIAAは鈴鹿8耐に参戦するチームを1995年よりサポートを続けてきたが、2019年もヨシムラ、SERT(スズキフランス)、カワサキなどのトップクラス以外にも多くのチームにライティングシステムを供給している。

■Qualifying/予選

好天に恵まれ、各チームが最高のパフォーマンスで挑んだ予選は、各チーム3名のライダーがタイムトライアルに臨み、3名の平均タイムで予選順位を決めるもので、以下の予選結果となった。(太字がPIAA装着チーム)

1. #21 YAMAHA FACTORY RACING TEAM
2. #10 **Kawasaki Racing Team Suzuka 8H**
3. #33 Red Bull Honda TAKAHASHI Takumi
4. #634 MuSASHi RT HARC-PRO. Honda
5. #12 **YOSHIMURA SUZUKI MOTUL RACING**
6. #7 YART - YAMAHA PARKES
7. #1 F.C.C. TSR Honda France HOOK Josh
8. #090 au. Teluru SAG RT
9. #95 **S-PULSE DREAM RACING**
10. #19 KYB MORIWAKI RACING
11. #3 **KRP SANYOUKOGYO & will raise RS-ITOH**
15. #71 TK SUZUKI BLUE MAX

- 16. #9 Moto Map SWAT
- 17. #2 Suzuki Endurance Racing Team
- 20. #44 Team ATJ with JAPAN POST
- 32. #4 EVA RT WEBIKE TATi TEAM TRICKSTAR
- 33. #55 Honda Hamayuukai Hamamatsu Escargot
- 35. #87 TEAM R2CL SUN CHLORELLA
- 40. #34 Honda Ryokuyoukai Kumamoto Racing
- 41. #24 Team WITH87 Kawasaki PLAZA Fukuokahigashi
- 48. #112 Honda EG Racing
- 63. #29 DOG HOUSE



暫定結果の訂正により優勝したカワサキチームは大観衆の前では表彰式に出られなかった

■Race/決勝

決勝は前日の台風6号の余波が心配されたものの、予定通り 11:30 好天のもとでスタートが切られた。序盤の約1時間をリードしたのは、PIAA が LED ランプ、LED ゼッケンでサポートする#12 ヨシムラスズキ MOTUL レーシングの GUINTOLI Sylvain 選手だった。下馬評で上位独占と言われていたホンダ、ヤマハ、カワサキのメーカー直営ファクトリーチームを2、3、4位に従え、素晴らしい走りを披露した。



序盤トップの#12 ヨシムラスズキ MOTUL レーシング

しかしながら、1時間を過ぎた頃より3ファクトリーチームが徐々に挽回して来て、3ファクトリーチームが毎ラップごとに熾烈なトップ争いを演じ、その戦いは最終スティントまで続いた。

18:30 になると「ライトオンボード」が掲示されるのが鈴鹿8耐の伝統となっているが、実は数年前より

レース中はスタートからゴールまでヘッドライト点灯が義務付けられるようになったが、この「ライトオンボード」の掲示は今でも 18:30 になると鈴鹿8耐名物として続けられている。とは言え、PIAA としてのアピールタイムであることは変わらず、ヘッドライトが夕闇を幻想的に照らす鈴鹿名物に多くの観客も魅了されたことだろう。

ラスト30分というところで、PIAA の LED ランプを装着する#10 Kawasaki Racing Team Suzuka8Hのジョナサン・レイ選手が、2分6秒台の驚異的なファステストラップをたたき出し、逆転トップに躍り出ると、見る見るうちに2位以下との差を広げ盤石の態勢を築いた。

一方、EWC 世界耐久選手権のシリーズチャンピオンがかかっている#2 SERT (Suzuki Endurance Racing Team) は、このままの10位でゴールすればチャンピオン獲得という局面のラスト6分マシントラブルでマシンを止めることとなった。チーム監督の名将ドミニク・メリアン監督はこのレースを最後に引退することになっていただけに、世界チャンピオンという最高のプレゼントをしたかったライダー、チームスタッフの落胆は大きく、シリーズランキングは3位で終えることとなった。



今季で勇退するSERTの名将ドミニク・メリアン監督と3位表彰台で喜べないSERTライダーたち

レースはラスト2分というところで、トップを快走する#10 Kawasaki Racing Team Suzuka8Hのジョナサン・レイ選手はついにファイナルラップを迎え、誰もがその勝利を信じて疑わない状況の中、なんとS字コーナーでオイルに足元をすくわれ転倒してしまったのだ。順位はヤマハ、ホンダの順でゴールラインを切った形で、暫定結果順位は1位ヤマハ、2位ホンダと発表され、暫定表彰式も行われたが、その後カワサキチームより暫定結果に対する抗議が出され、ジョナサン・レイ選手が転倒した直後に赤旗（レース中断）が出され、レースはそのままチェッカーが振られることなく終了したことから、

FIM レースディレクションにおいて赤旗の運用規則を再度厳密に精査し、FIM Endurance World Championship and Cup Regulations 1.23.1 に定められた赤旗中断時の規則を適用し、「赤旗提示の1周前（216周）の順位を結果として採用する」という規則に則り、暫定結果を変更。

- 1位 #10 Kawasaki Racing Team Suzuka 8H (PIAA サポートチーム)
- 2位 #21 YAMAHA FACTORY RACING TEAM
- 3位 #33 Red Bull Honda
- 5位 #12 YOSHIMURA SUZUKI MOTUL Racing (PIAA サポートチーム)
- 8位 #95 S-PULSE DREAM RACING (PIAA サポートチーム)
- 21位 #71 TK SUZUKI BLUE MAX (PIAA サポートチーム)
- 22位 #87 TEAM R2CL SUN CHLORELLA (PIAA サポートチーム)



■ Short interview / ショートインタビュー

・ヨシムラスズキ MOTUL レーシング / 加藤 陽平監督

『PIAA のライティングシステムは以前は HID システムを採用しており、明るさなど性能面では問題なく、何か不具合的なことが発生しても必ず原因を究明し、実はライティングシステムの不具合は一度もなかったもので、全幅の信頼を置いています。3年前より HID から LED システムに変更したのですが、チームとしてはそのシンプルなシステムによりメンテナンスのしやすさが増し、より信頼性が高まったと感じています。また、特注の LED ゼッケンについても開発段階で色々と試行錯誤を繰り返した結果、ゼッケン「12」が見事に鈴鹿8耐の夕闇に浮かび上がる仕様となり、LED チップがダイレクトにゼッケン番号を形作る仕様のものとは全く異なる上品でスタイリッシュなゼッケンを供給して頂いていることを大変喜んでます。』



・ヨシムラスズキ MOTUL レーシング / ライダー 渡辺 一樹選手

『以前から PIAA のシステムは使っていましたが、LED システムにしたことでより軽量化され、明るさ自体も鈴鹿8耐においては全く問題ないレベルで信頼しています。実はナイトセッションの前はサングラスをするなど工夫してます。今年からヨシムラチームとなり、ゼッケンも PIAA 製という事を聞いて驚きました。』





©Kawasaki Racing Team Suzuka 8H

©SERT (Suzuki Endurance Racing Team)

©YOSHIMURA SUZUKI MOTUL Racing

<http://www.yoshimura-jp.com/race/8hours/2019suzuka8h-team.php>

<https://special.kawasaki-motors.com/8tai/>

http://www1.suzuki.co.jp/motor/8tai/2019/report_02.php

#鈴鹿8耐

#suzuka8h

#ヨシムラスズキ

#yoshimurasuzukimotulracing

#kawasakiracingteamsuzuka8h

#鈴鹿サーキット

#suzukacircuit

#無双感ハンパない